

県交通安全施設業協会「子どもを守ろうプロジェクトIN岡垣」
町道の区画線、ソリッドシート施工等を岡垣町に寄贈



寄贈式に出席した関係者の記念撮影

県内の交通安全施設工事業者らで組織する（一社）福岡県交通安全施設業協会（田中賢哉会長、会員・賛助会員100社）は8月に実施した社会貢献活動「子どもを守ろうプロジェクトIN岡垣」の寄贈式が17日岡垣町役場で開催された。式には協会から田中会長（西日本ディックライト（株））、近藤正明副会長（（株）寿陽建設）、星子洋満副会長（双葉工業（株））、米田剛土理事（大東産業（株）



田中会長(右)から門司町長(左)に目録贈呈

社長）役員と田井晴彦事務局長、岡垣町からは門司晋町長、義経俊二副町長、佐々木俊之教育長が出席。田中会長から、門司町長に町道カラー舗装340m、区画線730mの交通安全施設の目録が手渡された。

同協会では子どもたちの交通事故防止のために、一昨年度から県内を4地区に分け、会員の持ち回りで「子どもを守ろうプロジェクト」事業に取り組むことを決定した。第4回目となる今回は、岡垣町の吉木小学校の近くや岡垣中央幼稚園など、多くの子どもが利用している通学路を選定。8月30、31、9月1日の3日間、歩道部340mのカラー舗装工事、学校側の両側車道部に730mの区画線施工、ソリッドシートを設置、車道部に「通学路」文字を4箇所設置した。

目録贈呈後の挨拶で、田中会長は「私どもは道路標識、区画線、防護柵などの道路交通安全施設の施工業者からなる、今年で設立5年目の一般社団法人です。一昨年は滋賀県大津市や東京都池袋で子どもたちの大切な命が奪われる痛ましい事故が発生。6月にも千葉県にて児童が巻き込まれる事故がありました。交通安全事業に携わる者として大変ショックなニュースです。業界を挙げて、子どもや高齢者の交通安全対策に貢献できるように努力したいと考え、これまでに福岡県内で4回、この事業を行ってまいりました。寄贈した施設が地域の子どもの安全を守り、また、岡垣町の交通安全対策事業の一助になれば幸いです。子どもたちは未来の日本を担っている大切な宝です。来年度以降も重要な事業として、行政や関係者の協力を得ながら続けていきたい」と述べた。

これに対し、門司町長は「6月の千葉県での事故を受けて、9月の議会において、補正予算等で交通安全施設整備について2,500万円を確保しました。そのタイミングと貴協会からの支援が重なり、今回のご寄贈を大変うれしく思っています」と感謝の言葉を述べた。